

地域のジェンダーギャップ解消のために抑えるべき重要ポイントについて

これから親になる若者(特に妊娠期の夫婦)に向けた、産前教育の実施が必要です。

具体的には、

妊娠期の男女(夫婦)が受講する「企業版両親学級」自治体主催の「両親学級」の内容に、『①家事育児における無意識のジェンダーバイアスへの気づき』を与え且つ『②子育てしながら働くことへのアンコンシャスバイアスを取り除く』ことを盛り込む必要があります。

- 1、背景(前提の共有)
- 2、令和の子育て現場の実情から分かったこと(弊社独自調査の結果)
- 3、結論

- 1、背景(前提の共有)

<若者の意向>

- ・仕事も育児も性別に関係なく頑張りたい意欲はあるが、不安が高い
- ・無理なく両立できる理想の働き方が叶えば、仕事のモチベーションは上がり離職意向は下がる。

- ・**72.2%**の男女が仕事と育児の両立に不安がある
- ・若年層の約7割が、会社を選ぶときに、「仕事(キャリア)とプライベートの両立」を意識している。
- ・家庭と仕事(キャリア)の優先順位付けについて、約7割が性別は関係ないと回答。

- ・若年社会人の中で、理想の働き方が実現した際に、仕事のモチベーションが高まると回答したのは74.4%。
- ・理想の働き方ができていない若年社会人は、理想の働き方ができている若年社会人に比べて、子育て期間における離職意向が24.3ポイント高い。

厚生労働省共育プロジェクトによる若年層調査

(2025年7月 N=13,709人 全国の男女 15-30歳 高校生大学生 若年社会人)

出展元: https://tomoiku.mhlw.go.jp/assets/pdf/activity/document_R7_0730.pdf

2、令和の子育て現場の実情から分かったこと(弊社独自調査の結果)

子育てにまつわるアンコンシャスバイアス

「子育て」にまつわる性別役割分業の無意識の思い込みがあったか？

(親のがっこう受講生の男女120名に対するアンケート)

■ 受講した女性から頂く最も多い声 ■

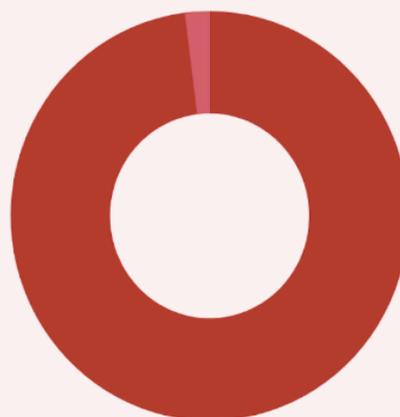
「母親になったら、遊びに行くことも・仕事に思いっきり打ち込むことも我慢して当然という思い込みがあったことに気づきました」

■ 受講した男性から頂く最も多い声 ■

「妻が出産によってたくさんのことを諦めようとしていることを知りました。何も諦めなくていいように自分がサポートしたい」

この相互理解を促すワークの実施により受講した男性の70%が男性育休の取得に至りました。(2021年7月と9月のモニター実施時点)

思い込み「なかった」
2%



思い込み「あった」
98%

3、結論

これから親になる若者(特に妊娠期の夫婦)に向けた、産前教育の実施が必要です。

具体的には、

妊娠期の男女(夫婦)が受講する「企業版両親学級」自治体主催の「両親学級」の内容に、『①家事育児における無意識のジェンダーバイアスへの気づき』を与え且つ『②子育てしながら働くことへのアンコンシャスバイアスを取り除く』ことを盛り込む必要があります。

以下2点を提案します。

・男性育休の義務化とセットで「企業版両親学級」の義務化

・自治体主催の両親学級の内容の見直し、アップデートすること(東広島市で実証実験を行い、2026年度に実行予定)。

既存の自治体主催の両親学級は産婦人科で行われている内容と重複しており、非常にもったいない現状があります。自治体主催だからこそ、以下の2点を盛り込んだ内容への仕様変更が必要です。

- ①家事育児における無意識のジェンダーバイアスへの気づきを与える内容
- ②子育てしながら働くことへのアンコンシャスバイアスを取り除く内容

参考資料: 上条厚子プロフィール

NPO法人ママライフバランス(親のがっこう)
代表理事 上条 厚子

厚生労働省共育 共育(トモイク)プロジェクト 推進委員
名古屋市男女平等参画推進委員
名古屋市ブランドパートナー
政策提言プラットフォームPoliPoliにて有識者登録
NewsPicks エキスパート登録

1981年生まれ 2児の母。「子どもはかわいい」けど「子育てがしんどい」状態(産後うつ)を経験し、「ちゃんと」よりも「自分らしく」子育てできるパパ・ママを増やすために2016年に子育てセミナー講師として起業。2020年にNPO法人化し、現在は、のべ2万人以上の育児支援実績をもとに開発された法人向け研修「親のがっこう」(<https://www.oyanogakkou.jp/>)で男性育休・女性活躍推進を軸に、社員の両立を支援し、人的資本経営・DE&Iの実現を後押ししています。採用力強化、離職防止、企業ブランド向上につながるサポートで、持続可能な組織づくりと社員のパフォーマンス向上を実現している。

2018年 日本初のオンライン子育て支援を実施する市民団体ママライフバランスをクラウドファンディングで立ち上げる。45日間で134人から170万7千円の支援を集める。
2020年 NPO法人ママライフバランス設立 / CBCテレビ(TBS系列)番組審議委員就任
2020年 ボーダレスジャパングループ企業に参画
2020年 名古屋市から地域子育て支援拠点の運営を受託
2022年 のべ1万人のパパママのお悩み解決の経験から 産前教育事業【親のがっこう】開始
2024年 Benesse「たまひよ」子育ての未来応援プロジェクトにノミネート
2024年 経済産業省令和6年度ユニコーン創出支援事業 女性アントレプレナー支援事業登壇
2025年 名古屋市男女平等参画推進委員拝命
名古屋市総務局「名古屋市シティプロモーション ブランドパートナー」に選定
名古屋市から地域子育て支援拠点の運営を受託(2拠点目)
独立行政法人福祉医療機構(WAM)助成先として選定、シングルマザー支援を開始

【お取引実績】

名古屋市総務局人事課・名古屋市教育委員会・中部電力株式会社・株式会社ベネッセコーポレーション・三井住友フィナンシャルグループ・ビッグロブ株式会社・株式会社テルモ・パーソルキャリア株式会社 他多数

【メディア掲載実績】

NHK・フジテレビ・CBCテレビ(コメンテーター)・中京TV・日本経済新聞・毎日新聞・中日新聞・Yahooニュース・LINEニュース・たまひよ・マイナビ子育て(記事監修)・日経WOMAN・光文社月刊VERY WEB 他メディア掲載多数

<その他>

- ・名古屋市総務局「子育てするなら名古屋」のページにコメント寄稿
- ・名古屋市 総務局 人事課 いくボス研修(管理職及び子育て中の職員向け研修)
- ・厚生労働省共育プロジェクト企業版両親学級 <妊娠期><復職期>担当
- ・経済産業省 中部経済産業局 女性起業家を増やすための啓発事業にて講演
- ・三井住友フィナンシャルグループ様 チーム育児ワークショップ(育休中の社員向け研修)
- ・三菱重工業パワーインダストリー株式会社 様

テーマ: 仕事と育児の両立(管理職及び子育て中の職員向け研修)